

2015年の世界連合総会に向けてともに歩むために January – February 2014

2015年の世界連合総会を意識して世界中のデレガータと同窓生のための養成の行程を促進するために「一緒に歩もう

と題された新しい項目をつくりました。2015年は私たちの最愛の父ドン・ボスコの誕生 200周年を祝うサレジオ家族すべてのメンバーにとって重要な年です。

2014年中に扶助者聖母会同窓会について本質と、使命と、展望を掘り下げるため、中核となるテーマ別に6つに分けた行程を提案したいと思います。各々のテーマは、①同窓会のために提示された文書と、②ウニオーネの評議員たちの回答用紙、の2部構成になっています。毎会同窓会世界連合のホームページ上に5カ国語で掲載されます。(www.exalloevefma.org>英語を選択>Associative life >nucleus>全文購読)

最初の中核となる文書は、同窓会100周年の閉会式の期間中、2009年7月29日、ローマの聖ヨハネ・ボスコ大聖堂に於けるチャーベス総長の「サレジオ会総長よりデレガータと同窓生への言葉」です。

質問3、4、5に答えることによって、第一番目のテーマの内容を共有してくださると嬉しく思います。これらは2015年世界連合総会で示される貴重な資料になるでしょう。

従って、みなさまの協力は非常に重要です。

文書 No.1 サレジオ会総長よりデレガータと卒業生への言葉

2009年7月29日

100周年を閉幕するにあたり、あなたがたは可能性と同時に挑戦に満ちた次の時代を始めようとしています。今、世界全体を悩ませている経済・金融危機は非常に深刻です。それは、教皇ベネディクト XVI が回勅「真実における愛」で明らかにされているような、貪欲が優先し、兄弟愛と連帯と社会正義を危険にさらしているような危機のことで、回勅は人間の統合的発展に基づいて共同体を組織する試みの重要性を示しています。

カリスマ、使命、我々が受け継いだドン・ボスコの霊性を通して神が我々にくださった賜物を感謝するために、あなたがたはここドン・ボスコ大聖堂に来ています。それだけではなく、ドン・ボスコの中にインスピレーションとエネルギーと、未来への歩みを見つけないかと思っているはずで

そしていつものように、私たちが耳を傾けた神の言葉は、主が21世紀以降に世界連合へ期待するものをより明確にするための道筋を与えてくれます。

今日、私はドン・ボスコのメッセージを繰り返したいと思います。それはパウロがフィリッピの教会に宛てた手紙に要約されています。『あなたがたが私について見たり、聞いたり、受けたり、学んだりしたことは、あなたがたが実行すべきことなのです。』それでは私たちがドン・ボスコについて見たり、聞いたりしたことで私たちの中で再現し、続けていかなければならないものは何でしょうか。それをもっとよく理解するためには事実をつかみ、忠実に真似るのがよいでしょう。

19世紀の大半を特徴づけているイタリアの政治的、社会的、経済的、宗教的な混乱の中で、ドン・ボスコは信仰から離れたしまった民衆の悲劇を感じました。とりわけイエスに愛されているはずの若者たちが打ち捨てられ、その理想や希望が政治家、経営者、ひいては教会によってまで裏切られていました。なんと、現在の状況はこれと大差ないのです。

このような状況の中でドン・ボスコは悪に立ち向かう新しいやり方を見つけて、力強く反抗しました。社会の否定的な力に対しては状況のあいまいさや危険さを告発し、時代の権力に対しては、(彼なりのやり方で)「異議」を申し立てて抵抗しました。

ドン・ボスコは状況を進展させ、改善するために、その当時の経済状況下で彼に与えられた力と歴史文化的条件とをうまく調和させました。その結果オラトリオ、各種の学校、職人用作業場、新聞・雑誌、印刷所と編集所、宗教的・文化的・レクリエーション的・社会的な青年団組織が創設されました。彼は教会や、外国宣教、移民への支援活動をし、さらに事業を継続するために宗教者向けと、一般人向けの二つの信心会もつくりました。

経済的、文化的、知的資源が足りないにもかかわらず、ドン・ボスコは生まれながらのコミュニケーション能力のおかげで、成功を収めたのです。困難な状況の中でも、常に信仰からくる最高の勇気に後押しされていました。カトリック信徒からも聖職反対論者からも、金持ちからも貧乏人からも、金と力のある男性からも女性からも、貴族階級や中産階級の代表者たちからも、高位の聖職者からも、すべての人から支援を勝ち取っていました。彼の援助の要求は、周囲の悲惨な現実

に心を閉ざしている人々に対して直接的、間接的に挑戦や、道徳的非難を投げかけることになりました。

調べてみると、ドン・ボスコの歴史的重要性はたくさんの「事業」と、有名な「ドン・ボスコの予防教育法」というある種独創的、方法論的要素との中にあります。

例えば:

○「見捨てられた」若者、つまり大部分は仕事に就いていなかったり、不適切な働き方をしている青少年の問題に対して一般的、神学的、社会的見地から彼が持っていた、知性と感性による認識をつかっていること

- 最初はトリノで(後にはイタリアと全世界で)、市民や政治家の中に青少年問題への強い関心があり、世論も賢明な理解を示してくれるという直感力をもっていたこと
- 教会の活力と社会秩序の存続のため幅広く、カトリック界と一般社会に正当な力添えを呼びかけるというアイデアをもっていたこと
- 協力者、後援者および賛美者の団体とコミュニケーションをとる能力を使っていること。

政治家でも社会学者でもなく単なる教育司祭だったのですが、ドン・ボスコは、どんな状況下でも善意と、責任と、適応能力を最大に発揮して為し遂げるならば、教育は多くのことができるという考えから出発していました。彼は意識を変えることと、人間としての誠実さ、市民的忠誠を養成することに力を尽くしました。

彼はそれまで信じていた価値観を変え、精神主義や教会の中に逃げ込む事なく、社会の出来事や具体的行動の中で、世間や生活の悩みから免れる場を守ってやるべきだと悟りました。そこで、彼の教育司祭への召命は強く、展望を持って日々励み、彼の価値観と理想が確かに具体化した次元としてその事業に見られるものは：

- 開かれた議論から逃げ隠れせず、多岐にわたる事実から率直に評価を受け入れること、
- 小さな必要を満たす狭い世界や、習慣的、機械的な繰り返しの場ではないということ、
- 緊張、厳しい犠牲、楽しみの放棄、争いさえも拒まないということ、があります。

彼は彼自身とサレジオ会員のために自由と自主性の誇りを持っていました。その事業が不測の政変に縛られることがないようにと望んでいました。

ドン・ボスコとその事業の形と意義は歴史的にも広く認められているし、我々はその相続人なのです。

これは、みなさんが同窓生という立場において、今の社会の中であなたがたが証言しなければならないキリスト教的アイデンティティーをより強くすることを意味します。イエスがマタイ 10 章 7～15 の中で言われているように、あなたがたは「神の国のよい知らせ

を伝えなければなりません。世俗的で多文化的、多宗教な社会にあってもキリスト教的生活を示すことによってこの知らせを携えていなければなりません。特に、最も貧しい人々、援助を必要としている人々みんなの生活の水準をあげる努力をし、希望をなくして生活している人々に再び命を与えるように求められています。人種や文化、性別、宗教のせいで疎外されたり、見捨てられたりしている人々を尊厳と権利を持って社会の中に取り込んで、権力や、お金や、快樂の悪弊から人々を開放するように求められています。このように私たちの全生活は召命と使命に生かされるように呼ばれているのです。

福音化(それは教会が存在するという私たちの道理ですが)は人間性を促進することや、この社会をより人間性にかなったものにする努力と切り離すことはできないのです。

私たちの証言と使命の場がどこにもないということはありません。サレジオ的教育の価値で世界に貢献しましょう。同窓生たちはサレジオ家族のメンバーなのでからこれは基本です。

親愛なる同窓生の皆さん、私たちはドン・ボスコのうちに見、聞きするものすべてをダイナミックな忠実さをもって継続し、進歩させるように求められています。母であり教師である、無原罪の扶助者聖母と共に最も貧しい人たち、危険にさらされている人たちの希望の証となるために私たちの努力を託しましょう。

世界連合、管区連合、支部ユニオーネとしての反省

- 1 「サレジオ会総長よりデレガータと卒業生への言葉」を慎重に読んでください:
- 2 総長のメッセージのどの観点が最も心に響きましたか。それはどんな理由から？
- 3 『ドン・ボスコは悪に立ち向かう新しいやり方を見つけて、力強く反抗しました。社会の否定的な力に対しては状況のあいまいさや危険さを告発し、時代の権力に対しては、(彼なりのやり方で)「異議」を申し立てて抵抗しました。』とあります。
私たちの社会政治的な状況はどうですか？ 同窓会が公共の福祉のためにできることは何かありますか？
- 4 私たちが受けたサレジオ的教育の価値観を同窓生として具体的な方法で社会貢献に生かしていますか？
- 5 総長様の「あなたがたの全生活は召命と使命をはたすために呼ばれている」という言葉を実現するような将来のあゆみをあなたがたの役員会では何か提案していますか？

個人としての反省

- 1 「サレジオ会総長よりデレガータと卒業生への言葉
- 2 の文書を慎重に読んでください:
- 3 生活するうえで困難に立ち向かうときサレジオ精神の中にインスピレーションとエネルギーを見出しますか？
それはどのようなことで？
- 4 社会経済的危機や、人間学的危機の中で生活しながら、同窓会への所属意識を持って活動しているユニオーネ会員として、家庭や、職場や社会環境の中で福音的価値を証しするために何かしていますか？
- 5 このテーマを深めるために2014年のストレンナを読むように勧めます。
「私たち固有の召命に従い聖性の道を歩めるよう
ドン・ボスコの霊的体験から 汲み取ろう。」

(上記ストレンナは語彙が一般的でなく難しいのでユニオーネでは趣旨を変えずに平易に訳したストレンナの訳を採用しています。)

「ドン・ボスコの生き方にならない神さまの呼びかけに応じて歩もう